

Roman 体で記述する。

4. 要約とキーワード

所属の下に3行の空白をおいて要約を**250文字以内**で記述する。なお「要約」は10pt. のゴシック体で中央に印字し、要約本文は10pt. の明朝体で記述する。要約の下に1行の空白をおいてキーワードを10pt. の明朝体で左寄せで記述する。

5. 本文と見出しなど

5.1 本文

キーワードから2行の空白をおいて、本文をはじめる。本文は10pt. の明朝体で記述する。章の見出しは10pt. のゴシック体とする。句読点は全角の「、」と「。」で統一する。

5.2 小見出しなど

節の小見出しも10pt. のゴシック体として、改行してすぐに本文を続ける。各パラグラフの先頭は1字下げで始め、パラグラフ間には空白を設けない。

6. 数式

数式は中央に印字し、式番号は(1)、(2)、として式の最後に右寄せして記す。なお式の上下には1行ずつの空白を設ける。

$$V_u = P_w \sigma_w b j \cot \phi + b D (1 - \beta) v_0 \sigma_B \tan \theta * \quad (1)$$

7. 図・写真・表・脚注

図・写真の番号、タイトルはその直下に、表の番号、タイトルはその直上に、それぞれ10pt. のゴシック体で記入する。図・写真および表の呼称は図1、写真1、表1、のようにして、論文全体を通して番号を振り付ける。なお図、写真および表の左右には、文字を流し込まないことが望ましい。図、写真および表は本文から1行空けたあとに貼付する。図・写真はカラー表示とすることを認める。

脚注¹

表1 観測地震動

日付	時刻	1F			5F	
		計測震度相当値 (水平2方向による)	最大加速度 (m/s ²)		最大加速度 (m/s ²)	
			N/S (梁間)	E/W (桁行)	N/S (梁間)	E/W (桁行)
10/23	17:56	4.4	0.72	1.07	1.78	3.26
	18:03	3.1	0.23	0.27	0.51	0.68
	18:12	3.1	0.12	0.25	0.43	0.70
10/24	17:56	4.4	0.72	1.07	1.78	3.26
	18:03	3.1	0.23	0.27	0.51	0.68
	18:03	3.1	0.23	0.27	0.51	0.68

¹脚注が必要な場合には引用ページの直下に、左端から5.0cm程度、0.5pt.幅の線を引いた下に、2行程度の範囲で10pt.の明朝体で記述する。

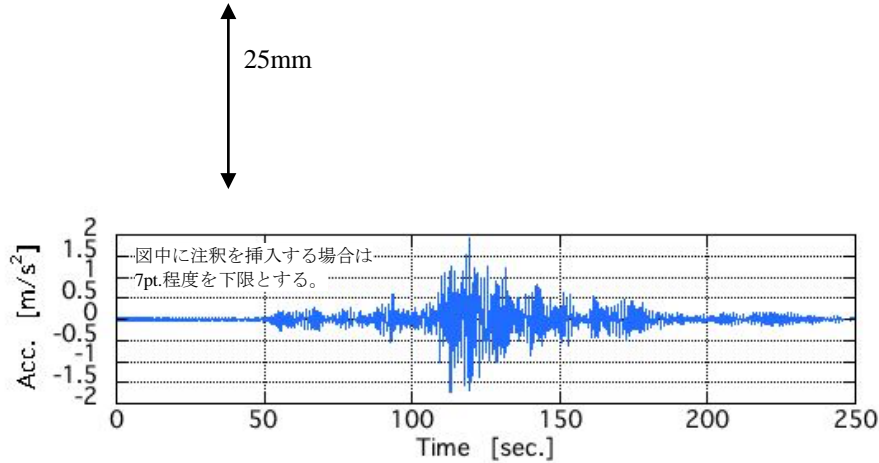


図1 観測波の時刻歴波形

8. 使用する単位とフォント

単位は原則としてSI単位系に統一する。提出された論文の書誌情報はxml形式でJ-STAGEに登録される。この際、J-STAGE側で用意してある書誌XML作成ツールを用いて論文（pdfファイル）から書誌情報を自動生成する際の要件として、下記のようなフォントの指定がなされているので、これに従うこと。

表2 jae XML作成ツールで指定されているフォント

テンプレート名	jaee_basic	
テンプレート項目	フォント名	フォントサイズ
記事タイトル(日)	MS Pゴシック	14.0
著者(日)	MS 明朝	14.0
所属(日)	MS 明朝	10.0
抄録(日)タイトル	MS ゴシック	10.0
抄録(日)	MS 明朝	10.0
キーワード(日)	MS 明朝、斜体	10.0
参考文献	(日) MS 明朝 (英数) Times New Roman	10.0

9. 謝辞と参考文献

謝辞がある場合には、本文の結論の末尾に10pt.の明朝体で記述する。

参考文献は10pt. の明朝体で記述する。使用した順に番号を振って、結論のあとにまとめて掲げる。参考文献は、著者名（姓名）：題名、掲載誌名、巻、号、発行年・月、掲載ページの順に記載する。

謝 辞

本論の作成に当たっては、日本地震工学会論文集編集委員会の委員各位のご協力を得た。記して御礼申し上げます。

参考文献

- 1) Paulay, T. : Moment Redistribution in Continuous Beam of Earthquake Resistant Multistory Reinforced Concrete Frames, Bulletin of New Zealand National Society for Engineering, Vol.9, No.4, 1976, pp.205-212.
- 2) 久保哲夫、小原明 : RC 造骨組に関する研究、日本建築学会梗概集、Vol.C、1987年、pp.719-720.